

- 1 日時 令和7年11月〇日(〇) 第〇校時  
2 学年 第2学年〇組  
3 単元名 「もっといきいきすみたいな!生きもの大きくせん!」 内容(7)  
4 単元について

#### 単元の目標

校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物に関わる活動を通して、生き物の様子、生き物が住んでいる場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、適切な世話の仕方やそれらが生命をもっていること、成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

#### 目指す子供の姿

- 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をする活動を通して、適切な世話の仕方や、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。
- 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をする活動を通して、生き物たちが住んでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。
- 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。

#### 現在の子供の姿

児童は、1年生の頃から学校の敷地内にある「なかよしふれあい広場」に親しみをもち、休み時間には多くの児童がこの場所で植物の観察をしたり、生き物と触れ合ったりして日常的に遊んでいる。

事前に行ったアンケートを分析すると、ほとんどの児童が生き物に親しみをもちていると考えられる。一方で、生き物と触れ合う活動の過程で「なかよしふれあい広場」の池に落ちた経験をした児童も多く、これからの活動のきっかけになるかもしれないと考える。

多くの児童が「なかよしふれあい広場」に親しみをもちているが、水辺に自由に立ち入って土手を踏み荒らしたり、夢中になってメダカやエビなどの生き物を大量に捕まえたりするなど、過ごし方に課題も出てきている。そのため、生き物の数が以前よりも減り、水辺の土手がぬかるんで危険になるなど、生き物にとっても、児童にとっても過ごしにくくなりつつある。

こうした状況の中で、「前より生き物が少なくなった気がする」「池の周りがぐちゃぐちゃで遊びにくい」といった声も児童から挙がるようになっており、身近な自然環境の変化に気づき始めている様子がうかがえる。また、「どうすれば生き物をもっとすみやすくなるかな」「壊さないように遊びたい」といった発言もあり、自然とのよりよい関わり方について考える素地が育ち始めている。

このような実態から、児童がこれまで親しんできた「なかよしふれあい広場」を、生き物にとってよりよい環境にしていきながら、生き物の変化や生命の大切さに気づき、生き物との関わり方も考えるようになってほしい。

## 単元の価値

本単元は、生き物のために「なかよしふれあい広場」をよりよい環境に整えようとする活動を通して、生き物の生育環境や成長の変化に関心を持ち、親しみをもって生き物を大切にしようとする態度を育てることができる単元である。また、困り感を共有し、解決策を考え、振り返る活動を通して、生き物に心を寄せながら繰り返し関わっていくことのできる単元でもある。

児童は1年生のとき、「なかよくなろうね 小さなともだち」の学習で一人1匹の生き物を育てる活動を行った。自分の育てる生き物に名前をつけたり、自分なりに世話を続けたりする中で、生き物に愛着を持ち、命と向き合う経験を重ねてきた。一方で、飼育ケースや水槽の中では長く生きられず、生き物が死んでいくことも経験し、命のはかなさや尊さに触れる姿も見られた。

このような経験を重ねてきた児童が、本単元では、「次はもっと長生きさせてあげたい」という思いをもちながら、生き物のすみかやえさについて、本で調べたり、詳しい人に聞いたりして、より工夫しながら活動していくことが期待できる。また、本校の豊かな自然環境を活かし、多様な生き物のすみかや生態を比べたり、関連付けたりする中で、生き物にとって過ごしやすい環境とは何かを見出し、よりよい環境に向けて繰り返し活動していけるようにしたい。

## 働きかけ・環境設定

導入では、1年生の時に生き物を育てた経験を振り返り、愛着をもって世話をしたことや、うまくいかなかったことについて話し合う。2年生では、生き物に合ったすみかに着目させながら、夏に一人1匹、校内の生き物を自ら捕まえ、育てる活動を行う。そこで、生き物の気持ちになって考えたり、「自分もこうされたら嬉しいから、生き物もこうされたら幸せだろう」と自分の気持ちと結び付けたりして考えられるようにしたい。

秋には、校内の「なかよしふれあい広場」を中心に、植物や生き物の様子に目を向ける。広場の環境が生き物にとってどのようなすみかになっているかを観察し、生き物の視点で考えられるようにする。児童が気付いたことや、工夫したいことについて話し合い、子どもたち自身の発想や意欲を大切にしながら、環境をよりよくするための活動を促す。

活動の中では、「なかよしふれあい広場」の生き物を守るためのルールづくりを行うだけでなく、「なぜそのルールが必要なのか」「生き物はどんなことに困っているのか」について深く考え、自然や生き物への思いやりを育てられるようにしたい。

また、地域の人や広場を作った人の話を聞き、この場所がみんなの大切な場所であることを実感できるようにし、自分たちの生活や遊び方が生き物の暮らしにどう影響しているか振り返る。最後に、児童自身が考えた工夫や約束を生活の中で実践し、継続して生き物と関わる姿勢を育てたい。

## つながる学び

**【道徳】**「ダンゴムシのまるちゃん」では、主人公が飼育しているダンゴムシのまるちゃんが住みやすいうちとはどんなものかを考えることを通して、生き物に対する親しみと愛着をもって接していこうと考えた。

**【国語科】**「かんさつ名人になろう」では、野菜の葉や花・実の大きさや形・色・数などに着目して観察する学習を通して、どのような特徴に目を向けるとその対象のことがよく分かるかを理解した。本単元では、その学習を生かして、生き物の特徴や成長の変化を観察することができるようにしたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をしている活動を通して、適切な世話の仕方や、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。	○ 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をしている活動を通して、生き物たちが住んでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	○ 校内の「なかよしふれあい広場」を中心とした生き物の世話をしている活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
① 生き物の特徴や成長の様子に気付いている。  ② 生き物の育つ環境はそれぞれ異なることや、生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。  ③ 生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。  ④ 生き物への親しみが増し、上手に関わることができるようになったことに気付いている。	① 生き物の育つ環境と関連付けながら、観察をしたり、特徴に合わせた世話をしたりしている。  ② 生き物の立場になって関わり方を見直しながら、世話をしている。  ③ 守ってきた生き物とすみかのことや、心を寄せて活動をしてきたことなどを振り返り、表現している。	① よりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。  ② 生き物や環境の変化に応じて関わったり、世話をしたりしようとしている。  ③ 生き物や「なかよしふれあい広場」に愛着をもったり、自分の関わりが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。

## 6 指導と評価の計画（全18時間）

	小単元名	主な活動内容	知	思	態	評価方法
（6月～夏休み前） つかまえた生き物にとって住みやすいすみかはあるか？	生き物とあそぼう （2 h）	・昨年度、生き物を飼った経験を思い出し、捕まえた生き物について話し合う。 ・生き物と触れ合い、飼育してみたい生き物を自ら捕まえる。	①	①		行動 発言 ワークシート
	生き物を買ってみよう ＋常時 （2 h）	・生き物のすみかやえさについて話し合う。 ・飼い方について、生き物に詳しい人に聞いたり、図鑑や本を見たり、インターネットで調べたりする。 ・生き物の特徴を知り、さらにすみかをよくする。	③	②		行動 発言 ワークシート
	生き物についてつたえ合おう （2 h）	・自分の生き物の「ひみつ」を伝え合う。 ・生き物のすみかや餌について、同じところや違うところを話し合う。生き物によって、住みやすい環境が異なることに気付く。		③	①	行動 発言 ワークシート

(9月) 「なかよしふれあい広場」の生き物にとって住みやすいすみかは？	「なかよしふれあい広場」の生き物について考えよう (2 h)	・今の「なかよしふれあい広場」が生き物にとって住みやすい状態かを話し合う。 ・自分たちの「なかよしふれあい広場」との関わり方を振り返る。	②			行動 発言 ワークシート
	どうすれば、「なかよしふれあい広場」の生き物がもっといきいきすごせるかな (2 h)	・生き物がより住みやすくなるような「なかよしふれあい広場」にするために、どんなことができるかを考える。	①	②		行動 発言 ワークシート
	もっといきいき生き物大作戦！ + 常時 (2 h)	・生き物がより住みやすくなるような「なかよしふれあい広場」にするために、考えたことを実行する。	②	②		行動 発言 ワークシート
	生き物がいきいきすごせるようになったかな (本時2 / 3 h)	・「なかよしふれあい広場」の生き物たちが活動前と比べて、いきいきと過ごせるようになったかを考える。		①		行動 発言 ワークシート
	生き物たちはこれからどうやって過ごすのかな (2 h)	・「なかよしふれあい広場」の生き物たちの冬の暮らしについて考え、話し合う。			②	行動 発言 ワークシート
	なにをかんじたかな (1 h)	・生き物や「なかよしふれあい広場」の様子を振り返り、上手に関わることができるようになったことを伝え合う。	④		③	行動 発言 ワークシート

## 7 本時の目標

自分たちが関わってきた生き物が「なかよしふれあい広場」で過ごしやすくなったかを、育つ環境と関連付けながら予想し、気付いたことを伝え合うことができる。

【思考・判断・表現①】

## 8 本時の学習展開

	学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
事前	<p>0 次時の活動を考える。</p> <p>「なかよしふれあい広ば」の生きものは、すみやすくなったかな？</p>	<p>○ 児童の言葉を使って次時の活動を考える。</p> <p>本時の見どころ</p> <p>★事前学習による自分の思い・願いの確認</p>
本時	<p>1 これまでの活動を振り返り、見直しをもつ。</p> <p>メダカのために、「なかよしふれあい広場」のルールを作ったり、川の流れを作ったりしたよ。</p> <p>2 問いを確認する。</p> <p>「なかよしふれあい広ば」の生きものは、すみやすくなったかな？</p> <p>3 「タブレットコーナー」「ちょうさコーナー」「おはなしコーナー」「ふせんコーナー」に分かれて問いについて考える。</p> <p>タブレットコーナーで、写真を見て活動前と後を比べると．．．</p> <p>調査コーナーで本を見ると、ダンゴムシのすみかは．．．</p> <p>おはなしコーナーで、エビの気持ちになって話してみるよ。</p> <p>ふせんコーナーで、友達の付箋と比べながら考えるよ。ルールをつくったことは、エビにとってもメダカにとっても、よかったんだね。</p> <p>4 生き物が住みやすくなったかどうか、考えたことを全体で共有する。</p> <p>写真を見ると、今まであった池の中のどろどろのタヌキモや、地面の草がなくなって、きれいになったから住みやすくなったと思います。落ち葉もみんなできれいにしたいです。</p> <p>まって！ダンゴムシには隠れ場所が必要って本に書いてあったから…落ち葉を全部とったら、住みにくくなっちゃうかも。</p> <p>エビやメダカたちは、寒い冬、どうやって過ごすのかな。ぼくたちが、このまま何もしないでも、生きられるのかな。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>川や池を整えたり、ルールを作ったりしてから、メダカは元気に過ごせるようになったと思います。でも、きれいにしすぎたら、他の虫の隠れ家がなくなるから、いけないなと思いました。次は、冬に向けてどうしてあげたらメダカが暮らしやすくなるか、考えたいです。</p>	<p>○ 本時の問いにつなげるために、今までの活動について振り返る。</p> <p>○ 掲示で学びの足跡を残し、夏までの活動や思いを思い出せるようにする。</p> <p>○ 「タブレットコーナー」では、タブレットを用意し、活動前と後の「なかよしふれあい広場」の様子を写真や動画で比べ、生き物のくらしを考えられるようにする。</p> <p>○ 「ちょうさコーナー」では、図鑑や本、資料を用意することで、生き物のくらしについて調べ、今の様子と比べながら、「なかよしふれあい広場」の生き物が過ごしやすくなっているかを考えられるようにする。</p> <p>○ 「おはなしコーナー」では、「生き物の気持ちで話そう」「生き物にとって過ごしやすくなったところは？」などのテーマを用意することで参加が難しい児童でも、友達の話を聞きながら生き物にとって住みやすいすみかについて考えられるようにする。</p> <p>○ 児童同士での対話を大切にし、児童の思いや願いを関連付けた構造的な板書を心掛けることで話し合いを深められるようにする。</p> <p>本時の見どころ</p> <p>★意見交流による思考の深まり。</p>

	6 次時の学習を考える。	○ 児童の言葉で次の学習を作ることで、主体的に取り組むことができるようにする。
	「なかよしふれあい広ば」の生きものたちは、これからどのようにすごしていくのかな。	
事後	7 次時までの時間を使って、本時考えた次の学習に対して自分の考えをもつ。	○ 次時の学習に対して思いや願いをもつことを認めるようにする。
	本時の見どころ	
	★次時の学習を考える場面。	

### 8-1 板書計画

もっといきいきすみたいな！  
生きもの大きくせん！

「なかよしふれあい広ば」の生きものは、すみやすくなったかな？

「なかよしふれあい広場」の地図

- ・川のながれができて、池がきれいになった。 → メダカたちも、水がきれいですみやすくなった。
- ・ルールを作って、池におちる人がいなくなった。 → メダカたちは、あんしんしてすごせるようになった。
- ・草をとってきれいになった。 → バッタにとっては、よくないかも？
- ♡おちばもとってきれいにしてあげたいな！ → とりすぎると、ダンゴムシのすみかがなくなる？
- ♡ふゆにおいて、すごしやすくしてあげたいな！ → ふゆはどうやってすごしているのかな？

「なかよしふれあい広ば」の生きものたちは、これからどのようにすごしていくのかな。

### 9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	具体的な児童の姿
<p><b>【思考・判断・表現力①】</b> 自分たちが関わってきた生き物が「なかよしふれあい広場」で過ごしやすくなったかを、育つ環境と関連付けながら予想し、気付いたことを伝え合うことができる。 (行動・発言・ワークシート)</p>	<p>○ 自分たちが関わってきた生き物が「なかよしふれあい広場」で過ごしやすくなったかを、育つ環境と関連付けながら予想し、気付いたことを伝え合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川や池を整えたり、ルールを作ったりしてから、メダカは元気に過ごせるようになったと思います。でも、きれいにしすぎたら、他の虫の隠れ家なくなるから、いけないなと思いました。次は、冬に向けてどうしてあげたらメダカが暮らしやすくなるか、考えたいです。</li> </ul>

### 10 本時の見どころ

- ・ コーナーでの活動や全体共有の場で、生き物の気持ちになって活動を振り返ったり、友達の考えを聞いて思考を深めたりしていたか。また、それを通して、新たな問いや思い・願いが生まれていたか。